

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01301

研究課題名(和文) 古代日本と朝鮮の金石文にみる東アジア文字文化の地域的展開

研究課題名(英文) Regional Spread of East Asian Character Culture from the Viewpoint of Ancient Japan and Korea

研究代表者

三上 喜孝(MIKAMI, Yoshitaka)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号：10331290

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では10世紀以前を対象にした韓国金石文目録を作成した。件数は814件で、目録には、資料名、所在国と所在地、所蔵先、時代や年号、金石文にみえるキーワード、出典などを収録している。今後はこのリストをさらに洗練したものにしたいと考えている。具体的な研究として、東アジアの買地券についての研究が進んだ。中国、朝鮮、日本の買地券を集成し、精細な写真をもとに再訳読を試みた。朝鮮半島の石碑についての再検討も進んだ(新羅の文武王碑、忠州高句麗碑、開仙寺石燈記など)。さらに、日韓の古代木簡についての比較研究についても多くの研究成果をあげた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、東アジア古代の歴史においていまだあまり注目されてこなかった金石文資料に注目し、その研究手法を高め、比較研究を進めたことに最大の学術的な意義がある。さらに、この研究を通じて、東アジアの研究者と連携し、交流を深めていくことで、国際的な研究体制を構築したことが今後の東アジア関係を良好に維持していくためにも社会的意義を有する。

研究成果の概要(英文)：In this study, we created an inventory of Korean epigraphy and stone dating back to the 10th century. The inventory contains 814 items, and includes the name of the item, the country of ownership, the owner, the year, keywords found on the epigraphy and stone, and the source. We would like to further refine this inventory and make it public in the future. As a specific research project, we have progressed in the study of East Asian land purchase deeds (sales contracts between the god of the land and humans). We collected land purchase deeds from China, Korea, and Japan and attempted to reinterpret them based on detailed photographs. We have also progressed in the reexamination of stone monuments on the Korean Peninsula (Silla's King Munmu Stele, Chungju Goguryeo Stele, Gaeseonsa Stone Lantern Records, etc.). In addition, we have achieved many research results in the comparative study of ancient wooden tablets from Japan and Korea.

研究分野：日本古代史、日韓文字文化交流史

キーワード：古代東アジア 金石文 文字文化 石碑 買地券 木簡 地域社会

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究を構想する学術的背景としては、東洋史学者の西嶋定生が構想し、現在学界で広く共有されている「東アジア文化圏」という概念の再検討という課題がある。「東アジア文化圏」を構成する「漢字」「漢訳仏教」「儒教」「律令」の4つの要素をあげ、それらが中国との外交関係のなかで東アジア諸地域に広まっていったとする学説は、現在でも絶大な影響力を持っているが、一方で近年の研究では、中国との外交関係を強調する点に関しては疑問が呈されており、中国と東アジア各地域との一方向的な関係だけではなく、東アジア諸地域相互の関係のなかで、これら4つの要素が東アジア諸地域に広まっていったと考えられるようになってきている(李成市『東アジア文化圏の形成』山川出版社、2000年)。本研究は、西嶋があげた4つの要素のうちの「漢字」をとりあげ、朝鮮半島と日本の漢字文化が、どのように展開し、とくに地域社会のなかにどのような形で浸透していったのかを、6世紀～11世紀の金石文資料を通して検討するものである。

近年、東アジアにおける古代文字文化の広がりについての研究の進展が著しい。とくに注目されているのは木簡である。1990年代後半以降、韓国の古代遺跡から木簡が出土するようになり、2007年には韓国木簡学会が設立された。これを受けて日本においても、韓国出土木簡と、日本の古代木簡との比較研究が進められることになり、これにより、日本古代の文字文化や記録技術の受容が、朝鮮半島の古代の文字文化の検討なしには解明し得ないことが明らかになってきた。

ただ、これまでのこうした研究の多くは、どちらかといえば、文字文化受容の初期の段階、具体的にいえば6世紀の朝鮮半島の文字資料と、7世紀以降の日本列島の文字資料の比較、という点に多くの関心が傾けられてきた。本研究は、対象とする時期を、日本では平安時代、朝鮮半島では統一新羅～高麗時代初期(いわゆる羅末麗初の時代)にまで広げ、石碑だけではなく、墓誌、印章、鐘銘といった金石文全般を対象とし、それぞれの資料的性格に即した研究を通じて、漢字文化の地域社会への広がりの実態について考察する。

2. 研究の目的

本研究の最大の特徴は、これまで注目されることの多かった木簡や石碑だけではなく、墓誌や印章や造像名、鐘銘など、広く金石文全般を研究対象としている点である。これらの金石文資料は、近年の東アジア文字文化研究の全体の中で必ずしも正当に位置づけられてきたわけではなく、したがって釈文について厳密に検討する機会がほとんどなかった。本研究では、それぞれの金石文の実物資料をできるだけ観察することにより釈文を確定することを第一の目的とし、その上で、それらを相互に比較することを通じて、日本列島や朝鮮半島における各地域社会の文脈の中でとらえ直すことを第二の目的とするものである。

以上のような点をふまえて、本研究では、以下のような課題を設定する。

(1) 日韓古代金石文資料の釈文の再検討と資料集の作成

まず、金石文(石碑、墓誌、造像名、印章、鐘銘)の釈文の再検討を行う。とくに問題となるのは、韓国所在の古代金石文についてである。韓国では金石文の集成がたびたび行われ、

さまざまな史料集が公刊されているが、研究者によって釈文についての見解が分かれるものが多く、どの釈文を採用していいのかわからないものも多い。そこで、釈文について見解の分かれる金石文について、実物資料や良質な拓本の観察を行い、あらためて釈文の確定を行い、決定版の釈文に基づいた資料集を作成する。

(2) 日韓金石文資料の比較研究

石碑、墓誌、造像名、印章、鐘銘等のそれぞれの金石文資料について、朝鮮半島と日本との比較研究を行う。たんに文字内容や用語の比較にとどまらず、モノ資料として、形状の比較も行う。

たとえば印章の場合、印面の文字の書体が篆書体である場合や楷書体である場合がある。日本の古代印は、印面の文字が篆書体となる時期と楷書体となる時期があることが明らかにされているが、こうした時期による書体の変遷が朝鮮半島にもみられるかどうかについて、比較検討する必要がある。また、文字だけでなく、印章の鈕(つまみ)の形状に注目すると、日本の古代印の場合、公印と私印では鈕の形状が異なることがこれまでの研究で明らかにされている。朝鮮半島の印章の場合も、こうした視点から形態的特徴をとらえ直すことが重要であると考えられる。これにより、東アジアの文字文化が、たんなる文字の伝播にとどまらず、書写材料と一体となって伝播していく様相を描き出すことが可能となる。

3. 研究の方法

(初年度)

調査カードを作成し、対象となる時期の金石文について、これまでの釈文や研究を集成する。

韓国において、資料調査を行う。合わせて、韓国の研究者と研究会や意見交換を行う。研究会を複数回開催し、釈文の検討や日韓金石文資料の比較検討を行う。

(2～3年度)

初年度に引き続き、金石文資料の集成作業を行い、とくに問題となる金石文について、韓国において資料調査を行う。それらの調査をふまえた研究会を複数回実施する。

国内の金石文調査も行う。とくに、朝鮮半島との関係が比較的にみられる九州地方や関西地方を重点的に、問題となる金石文の解読調査を行う。

(最終年度)

日韓金石文について、論考編と資料編を合わせた報告書の刊行をめざす。

日本と韓国の研究者による国際シンポジウムを開催する。

4. 研究成果

新型コロナウイルスの影響で、韓国における現地調査を行うことが叶わなかったが、その分、国内における資料収集やオンラインを中心に研究活動を行った。

10世紀以前を対象にした韓国金石文目録を作成した。件数は814件で、目録には、資料名、所在国と所在地、所蔵先、時代や年号、金石文にみえるキーワード、出典などを

収録している。今後はこのリストをさらに洗練したものにしようとして公表したいと考えている。

東アジアの買地券についての研究が進んだ。中国に起源する買地券（土地神から墓地を買いとる契約書を記した金石文資料）は、これまでに朝鮮では3例、日本では2例が知られている。朝鮮の3例のうち、ひとつは百済の武寧王陵誌石であり、残り2例は高麗時代のものであるが、このほどもう1例、高麗の買地券の存在が明らかになり、精細な写真をもとに釈読を試みた(稲田奈津子)。あわせて宮ノ本遺跡（福岡県太宰府市）出土の買地券についての調査もおこなった。また、浙江省・江蘇省南部に出土した買地券に着目し、浙江の4例、江蘇の7例を中心に取り挙げた。11例には後漢・呉（三国）・東晋・南朝・唐・五代・明各時代のものがあり、典型的な買地券事例だけでなく、売地券や、墓誌・買地複合事例も含まれる。それぞれの画像データに基づき、釈読を試みた(王海燕)。

新羅の文武王碑は、古くからその存在が知られていたが、断碑であること等から史料として十分に活用されてこなかった。現在の碑文の現状では、損耗が激しく、新たに文字を判読することは困難とみられる。本研究課題では、ソウル大学校中央図書館古文献資料室所蔵が所蔵する20世紀初頭にとられた拓本に注目し、その調査結果をもとに、新たな釈文を提示し、そのうえで碑文の性格について研究を深めた(植田喜兵成智)。

2019年に忠州高句麗碑の再調査が行われ、資料集が刊行されるとともに新たな釈文が出された。全面上段に年紀を読みとるなどしたこの新釈文に基づいて、広開土王代の397年とする新たな説が出されている。本研究課題では、釈文について再検討を加えて、新たな年代観を示すとともに、内容についても新たな知見を加えた(橋本繁)。

全羅南道潭陽郡南面鶴仙里に現存する開仙寺址石燈（宝物111号）に刻まれた銘文「開仙寺石燈記」について再検討を行った。釈文がほぼ確定したと思われる「石燈記」だが、基礎的な論点に議論の余地が残されていると考え、先行研究で理解の分かれている、銘文中の2つの年次がもつ意味を再検討し、さらに文字以外の外的要素、すなわち文字を画する罫線に注目し、史料に即した基礎的研究を前進させた。これにより当時の新羅社会の変動・推移の一端を垣間見ることができ、「石燈記」には当時の不安な現状認識と将来への見通しが反映していることを論証した(赤羽目匡由)。

日本の古代木簡の型式分類と機能分類を再検討し、その特徴と問題点を明らかにするとともに、それを東アジア的な視野に広げた場合、中国の古代簡牘や韓国の古代木簡の分類にどのように応用できるかについての可能性を指摘した(三上喜孝)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 26件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 赤羽目匡由	4. 巻 18
2. 論文標題 「開仙寺石燈記」の基礎的研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 53-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植田喜兵成智（Ueda, Kiheinarichika）	4. 巻 27-2
2. 論文標題 The Genealogy in the Koguryo Diaspora 's Epitaph.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Korean History	6. 最初と最後の頁 31-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 29
2. 論文標題 日本古代木簡の型式分類と機能的分類	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木簡と文字（韓国）	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本繁	4. 巻 54
2. 論文標題 咸安城山山城木簡の「王私」と「城下麦」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新羅史学会	6. 最初と最後の頁 199-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本繁	4. 巻 29
2. 論文標題 慶山所月里木簡の性格に対する基礎的検討－新羅村落文書との比較および形態的特徴を中心に」(韓国語)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 187-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本繁	4. 巻 42
2. 論文標題 忠州高句麗碑の新判読と年代	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 韓国古代史探求	6. 最初と最後の頁 485-516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤羽目匡由	4. 巻 24
2. 論文標題 則天武后末期の東方情勢に関する一問題 渤海における則天武后の影響と残像	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 57 - 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤羽目匡由	4. 巻 258
2. 論文標題 新羅東北境における炭項関門の築造年代と「泉井郡」の称	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝鮮学報	6. 最初と最後の頁 197-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 16
2. 論文標題 東アジア儀礼研究の新しい視角 -物品目録の検討から- (韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東西人文(韓国・慶北大学校人文学術院)	6. 最初と最後の頁 571-595
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植田喜兵成智	4. 巻 120
2. 論文標題 日本における『翰苑』研究の動向と課題—7世紀資料として活用するための試論(韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 白山学報(韓国)	6. 最初と最後の頁 179-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本繁	4. 巻 77
2. 論文標題 新羅文書木簡の基礎的検討—新出土月城垓子木簡を中心に(韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 嶺南学(韓国)	6. 最初と最後の頁 187-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本繁	4. 巻 26
2. 論文標題 韓国出土『論語』木簡の原形復元と用途(韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 木簡と文字(韓国木簡学会)	6. 最初と最後の頁 111-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本 繁	4. 巻 52
2. 論文標題 釜山金山城木簡の基礎的検討 - 佐波理加盤付属文書との比較を中心に(韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新羅史学報	6. 最初と最後の頁 455-476
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 16
2. 論文標題 古代日本における人面墨書土器と祭祀(日本語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東西人文(韓国・慶北大学校人文学術院)	6. 最初と最後の頁 301-315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 17
2. 論文標題 韓日本簡からみた古代東アジアの医薬文化」(韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東西人文(韓国・慶北大学校人文学術院)	6. 最初と最後の頁 177-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 232
2. 論文標題 出土文字資料から見た払田柵の機能	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 277 - 286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤羽目 匡由	4. 巻 ヘアン出版(韓国)
2. 論文標題 『類聚國史』所載のいわゆる「渤海沿革記事」原史料の収集者について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 李仁在編『境界を越える高句麗・渤海使研究』	6. 最初と最後の頁 287-317
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤羽目 匡由	4. 巻 勉誠出版
2. 論文標題 渤海の中央官制と地方制度	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鈴木靖民・清水信行編『渤海の古城と国際交流』	6. 最初と最後の頁 43-61
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 41
2. 論文標題 納棺・埋葬儀礼の復元的考察 トゥルファン出土随葬衣物疏を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 武漢大学中国三至九世紀研究所編『魏晋南北朝隋唐史資料』	6. 最初と最後の頁 235-257
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 同成社
2. 論文標題 殯をめぐる覚書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古瀬奈津子編『古代日本の政治と制度 律令制・史料・儀式』	6. 最初と最後の頁 2-23
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植田喜兵成智	4. 巻 ヘアン出版(韓国)
2. 論文標題 '内臣之番'としての百濟・高句麗遺民 - 武周～玄宗開元年間の遺民の様相と其の変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 李仁在編『境界を越える高句麗・渤海使研究』	6. 最初と最後の頁 217-251
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本繁	4. 巻 24
2. 論文標題 月城亥子新出土木簡と新羅外位	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木簡と文字(韓国)	6. 最初と最後の頁 227-250
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本繁	4. 巻 23
2. 論文標題 古代朝鮮の出土文字史料と「東アジア文化圏」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 41-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本繁	4. 巻 100
2. 論文標題 月池(雁鴨池)出土木簡の研究動向および内容検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 韓国古代史研究(韓国)	6. 最初と最後の頁 223-265
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑中彩子	4. 巻 吉川弘文館
2. 論文標題 正倉院文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佐藤信監修・新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史 社会史料編』	6. 最初と最後の頁 199 - 209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀裕	4. 巻 法蔵館
2. 論文標題 王宮からみた仏教の受容と展開 七世紀から九世紀を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佐藤文子・上島享編『日本宗教史4 宗教の受容と交流』	6. 最初と最後の頁 12 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 221
2. 論文標題 韓国出土木簡に見える海産物とその加工品	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 123 - 139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 24
2. 論文標題 日本出土の古代木簡 古代地域社会における農業経営と仏教活動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木簡と文字 (韓国)	6. 最初と最後の頁 347 - 356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 25
2. 論文標題 古代日本論語木簡の特質 韓半島出土論語木簡の比較を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木簡と文字 (韓国)	6. 最初と最後の頁 173 - 189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 224
2. 論文標題 韓国出土の文書木簡 ~ 「牒」木簡と「前白」木簡を中心に ~	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 149 - 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 1
2. 論文標題 平泉出土文字資料へのアプローチ (1) 饗宴と文字	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 平泉学年報	6. 最初と最後の頁 48 - 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植田 喜兵成智	4. 巻 70-4
2. 論文標題 黒歯常之・俊親子の事績とその墓誌の制作背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 61-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植田 喜兵成智	4. 巻 64
2. 論文標題 ‘内臣之番’としての百濟・高句麗遺民 - 武周期から玄宗開元期に至るまでの遺民の様相とその変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高句麗渤海研究(韓国)	6. 最初と最後の頁 229-259
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本 繁	4. 巻 周留城出版社
2. 論文標題 「視覚木簡」の政治性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文字と古代韓国 1 記録と支配(韓国)	6. 最初と最後の頁 607-632
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本 繁	4. 巻 242
2. 論文標題 六世紀新羅における識字の広がり	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中国学術の東アジア伝播と古代日本』(アジア遊学)	6. 最初と最後の頁 108 - 118
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 218
2. 論文標題 慶州・雁鴨池木簡の薬物名木簡再論 - 古代東アジアの医薬文化 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 299 - 307
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 22
2. 論文標題 日本出土の古代文字資料 - 秋田県秋田城跡111次調査出土具注曆記載漆紙文書 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 木簡と文字 (韓国)	6. 最初と最後の頁 361 - 371
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 「日本古代木簡の型式分類と機能的分類」
3. 学会等名 韓国木簡学会第16回国際学術大会「韓・中・日古代木簡の名称に対する総合的検討」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 稲田奈津子
2. 発表標題 「平城京の国際性」
3. 学会等名 國立臺灣大學日本研究中心 第九屆全國研究生研習營「人文與社會科學對話的日本研究」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 植田喜兵成智
2. 発表標題 「文武王碑にみえる新羅の国際認識」
3. 学会等名 第23回遼金西夏史研究会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 橋本繁
2. 発表標題 「新羅の地方支配と木簡一大邱・八(草冠に呂)山城木簡の基礎的検討を中心に」
3. 学会等名 慶北大学校人文学院HK+事業団第5回国際学会議『木簡に反映された古代東アジアの法制と行政制度』
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 赤羽目匡由
2. 発表標題 開仙寺石燈記」の外的性格に関する二、三の問題
3. 学会等名 慶北大学校人文学院HK+事業団・国立歴史民俗博物館共同学会大会『古代韓国と日本の文字文化と書写材料』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本繁
2. 発表標題 慶山・所月里木簡の性格
3. 学会等名 慶北大学校人文学院HK+事業団・国立歴史民俗博物館共同学会大会『古代韓国と日本の文字文化と書写材料』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 東アジア宗教史と古代日本
3. 学会等名 国史談話会大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 宗教からみた古代日韓の石と文字の文化
3. 学会等名 慶北大学校人文学院HK+事業団・国立歴史民俗博物館共同学会大会『古代韓国と日本の文字文化と書写材料』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 古代日本における人面墨書土器と祭祀
3. 学会等名 韓国・国立慶北大学校人文学院HK+事業団第3回国際学会大会「慶山 所月里木簡の総合的検討」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲田奈津子
2. 発表標題 東アジア儀礼研究の新視角 「物品目録」の検討から
3. 学会等名 慶北大学校人文学院HK+事業団 第1回国際学会大会「古代東アジア文字資料研究の現在と未来 韓国・中国・日本出土木簡資料を中心に」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 植田喜兵成智
2. 発表標題 近年の高句麗遺民墓誌に関する研究動向
3. 学会等名 第5回金毓黻と東北アジア史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 植田喜兵成智
2. 発表標題 東アジアにおける則天文字の使用と受容の状況 中代・下代新羅文字資料に対する分析を中心に
3. 学会等名 中国文化大学東亜学国際學術論壇「漢字文化於東亜地区的傳播及受納的動態」部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 植田喜兵成智
2. 発表標題 日本学界の『翰苑』研究の動向と課題 7世紀資料として活用するための試論
3. 学会等名 學術會議「日本所在の 唐代類書, 『翰苑』 蕃夷部の総合的検討」(韓国)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 植田喜兵成智
2. 発表標題 在唐高句麗遺民の祖先叙述類型とその変化
3. 学会等名 朝鮮史研究会関東部会1月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本繁
2. 発表標題 雁鴨池出土木簡の研究動向および検討
3. 学会等名 韓国古代史研究会・国立慶州文化財研究所主催シンポジウム『統一新羅の宮苑池、東宮と月池の調査と研究—回顧と展望』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本繁
2. 発表標題 新羅文書木簡
3. 学会等名 国立慶州博物館主催シンポジウム『統一新羅文字の世界』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本繁
2. 発表標題 中古期新羅地方社会の文字使用と疎通
3. 学会等名 第6回世界人文学フォーラム（韓国）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本繁
2. 発表標題 韓国出土論語木簡の原形復元
3. 学会等名 韓国木簡学会主催『東アジア「論語」の伝播と桂陽山城』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本繁
2. 発表標題 釜山盃山城木簡と佐波理加盤付属文書
3. 学会等名 慶北大学校人文学術院HK+事業団第2回国際学術大会「木簡を通してみた古代東アジアの物資流通と管理」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 東アジア宮中仏事の比較史 日本と百済・新羅を中心に
3. 学会等名 日韓古代比較宗教史国際シンポジウム（東北大学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 日韓の木簡からみた古代東アジアの医薬文化
3. 学会等名 韓国・慶北大学校人文学術院HK+事業団 第1回国際学術大会「古代東アジア文字資料研究の現在と未来- 韓国・中国・日本出土木簡資料を中心に -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 古代日本における論語木簡の特質 -韓国出土の論語木簡との比較から-
3. 学会等名 韓国・桂陽山城博物館、慶北大学校HK+事業団、韓国木簡学会主催国際学術大会「東アジア論語の伝播と桂陽山城」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 観音信仰、百済から日本へ 『観世音応驗記』を出発点として
3. 学会等名 日韓古代比較宗教史国際シンポジウム（東北大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 赤羽目匡由
2. 発表標題 中国皇帝のかさのもとで 渤海王の官爵利用
3. 学会等名 九州大学韓国研究センター定例研究会「韓国前近代の国際関係 その構図・特質への視座」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本繁
2. 発表標題 古代朝鮮の出土文字史料と「東アジア文化圏」
3. 学会等名 唐代史研究会夏期シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本繁
2. 発表標題 2019年日本出土木簡資料
3. 学会等名 韓国木簡学会第33回定期発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 金城の南山と平城京の東山 王都周辺の山林寺院に関する日韓比較
3. 学会等名 2019年国立慶州博物館新羅学国際シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 『観世音心験記』の周辺 - 日本古代における観音信仰の受容をめぐる -
3. 学会等名 仙台古代史談話会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 稲田奈津子・王海燕・榊佳子編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 黄泉の国との契約書 東アジアの買地券	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀 裕 (HORI Yutaka) (50310769)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	植田 喜兵成智 (UEDA Kiheinarichika) (50804407)	学習院大学・付置研究所・助教 (32606)	
研究分担者	稲田 奈津子 (INADA Natsuko) (60376639)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	赤羽目 匡由 (AKABAME Masayoshi) (60598853)	東京都立大学・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	畑中 彩子 (HATANAKA Ayako) (80453497)	東海大学・文学部・准教授 (32644)	
研究分担者	橋本 繁 (HASHIMOTO Shigeru) (90367144)	日本女子大学・文学部・研究員 (32670)	2019年度より韓国・慶北大学校に転任したため、以後は研究協力者

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 中国・韓国における古代金石文研究の最前線	開催年 2021年～2021年
--------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関